福祉用具ヒヤリハット　研修教材（講師用）

Case：204

落ちた手元スイッチを拾おうとして、ベッドの柵（サイドレール）から腕が抜けなくなったり転倒しそうになる

場面の説明

手元スイッチが落ちてしまったので、寝たまま腕を伸ばして取ろうとしたが、腕がベッドの柵（サイドレール）にはまり込んで抜けなくなり転落しそうになった



利用シーン	起居・就寝
主な利用場所	寝室
介護保険の種目	特殊寝台付属品
分類コード (CCTA95)	181227 (ベッド用サイドレール，ベッド固定式起き上がり手すり)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

落ちたモノを自ら拾おうとする判断が適切ではなかったことが要因ですが、利用者が認知症など適切な判断ができない人であったとすると、家族など周囲の介助者の対応に問題があった可能性も出てきます。適切な操作が困難な人の利用では、手元スイッチを目の届かない場所に格納するなど、事故を未然に防ぐための配慮が必要です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：自分で取れると思った
人：後先考えず、ついつい手を伸ばしてしまった
モノ：ベッドの柵（サイドレール）に腕が入り込む隙間がある
環境：手元スイッチの格納場所が悪かった
環境：呼出ブザーなどがなく、助けを呼ぶ手段がなかった

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.